

「『心のバリアフリー』の実践に向けたハンドブック」の概要

※ () 内は該当ページ

はじめに(P2)

- 障害の社会モデルの考え方に基づいた「心のバリアフリー」について、分かりやすい具体的な事例を交えながら紹介し、都民の理解促進や実践につなげる。

1 心のバリアフリーとは(P4~9)

(1) 心のバリアについて

- (場面1) 聴覚障害のある人や外国人等が車内放送のアナウンスが分からない
- (場面2) 視覚障害のある人がまちの中で迷っている
- (場面3) 混雑していて、車いす使用者等がエレベーターを利用できない

- 意識と行動でバリアをなくし、すべての人が**平等に社会参加できる社会や環境**について考え、**必要な行動を継続を続けることが「心のバリアフリー」**

(2) 社会や環境にあるバリア

- 障害のあることがバリアなのではなく、**障害のある人を含めたすべての人に配慮していない社会や環境がバリア**
- **社会や環境にあるバリアをなくしていくことが重要**

2 「心のバリアフリー」の実践に向けて(P10~15)

(1) 都民の「心のバリアフリー」に関する認識

- まちの中で**手助けが必要な場面に気付いてはいるものの、積極的に声かけをする人は一部で、行動を起こすことが課題**

(2) 「心のバリアフリー」の実践のための3つのステップ

- (その1) **障害の社会モデルの視点でバリアを理解**
- (その2) 必要な配慮について**コミュニケーション**をとり、意向を確認
- (その3) バリアの解消に向けて、自分にできる**適切な配慮**を行う

3 まちのバリアを考える(P16~27)

- 「**移動**」、「**職場や窓口でのコミュニケーション**」、「**店舗でのコミュニケーション**」、「**施設・設備の利用**」の4つの場面で、**バリアや配慮のポイント**を紹介

4 「心のバリアフリー」の理解に向けた取組(P28~29)

- 学校、地域、事業者等における取組を紹介